



馬の学校

# 馬の学校通信

2009. 6 vol.34

発行 馬の学校

事務局 〒409-0115 山梨県上野原市松留 645 ハイム上野原 206 TEL/FAX:0554-63-5534

E-mail : mine@horseschol.org ホームページ : http://www.horseschool.org



## 夏のプログラム 参加者募集！！

### ウマキャンプ (3泊4日)

日程：8月18日(火)～8月21日(金) 山梨・小須田牧場

対象：小学4年生～高校3年生 (定員 6名)

参加費：¥41,000 (現地集合・解散)

\*大阪集合解散の場合、小学生 ¥50,000 中学生以上 ¥55,000

★お申し込みは、会員の皆さまは6月30日(火)から、一般の方は7月2日(木)から、電話・メール・FAX(0554-63-5534)で事務局まで。(留守電になっていることが多いので、その場合はメッセージを残していただければ、こちらからご連絡させていただきます)

## 春のプログラム 活動報告

### 馬とのふれあいプログラム (3/15・4/25・6/13)



毛がいっぱい抜けるね



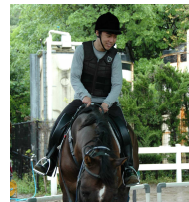
馬の首にタッチ！



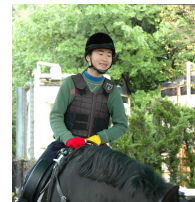
こっちだよ～



馬小屋をきれいにしました



乗馬は楽しいよ！



たくさん取れたよ



「早く食べたい・・・」

### ファミリープログラム (4/26)



みんなでブラシがけ



風を切って走るの気持ちいい！

## 馬のマメ知識 ～全ての馬の共通の祖先～

### プルツェワルスキー (モウコノウマ)

野生馬と聞くと北米大陸などに広く分布しているようですが、実はそれらは家畜が逃げ出して野生化したもの。生粋の野生馬はこのプルツェワルスキーだけです。いま地球上に生息するすべての馬は、大きな馬も小さなポニーも白い馬も黒い馬も、プルツェワルスキーを祖先に持つと考えられています。ロシアの探検家プルツェワルスキー大佐によってモンゴルで発見され、その名がつけました。たまたま背中に縋線(たてがみから尻尾まで伸びる黒っぽい線)がある馬がいまいませんか？それらはプルツェワルスキーの特徴であり、「先祖返り」したと考えられています。(幸田郁代)



## 2008 年度会計報告

収入	(円)
2007 年度繰り越し	79,447
年会費・賛助会費	70,000
プログラム収入他	663,000
<b>合計</b>	<b>812,447</b>
支出	(円)
通信費	87,180
消耗品費	29,786
プログラム費	607,670
<b>合計</b>	<b>723,036</b>

## おすすめの本

『馬木葉（まきば）クラブへおいでよ!』

大田 仁美 著 共同文化社

「馬と暮らす」という斬新なコンセプトでスタートした馬木葉クラブは、知的障がい者が中心となり、動物の世話もする国内に前例のない障がい者福祉施設。乗馬クラブや喫茶店の運営、革グッズの製作・販売など、自分にできる仕事に取り組みながら、可能性を広げています。（共同文化社 HP より）馬が人と人とを結ぶ大切な役割を果たしている素敵な施設、一度訪れてみたいですね。



## ウエスタン競技 その1

日本の乗馬スタイルで「プリティッシュ」の次に広まっているのは「ウエスタン」です。ウエスタンってどんなの?と思う方でも、カウボーイといえばピンとくるで

しょうか。プリティッシュがもともと軍事目的で発展したのにくらべ、ウエスタンはまさにカウボーイが効率よく仕事をするために発展しました。鞍の形も、手綱

の形もだいぶ違います。しかも上手な人になると手綱は片手で持つんですよ!またウエスタン乗馬では「アメリカンクォーターホース」という馬を多く見かけます。これは乗り降りしやすい馬体の大きさで、人とともに仕事をするのが大好きだといわれている品種です。

現在のウエスタン乗馬では、カウボーイたちが仕事をするために培ってきた技術を競技化しています。牧場の中で牛を捕まえるための「ローピング」、狙った牛を群れから切り離すための「カッティング」、馬にまたがったままさまざまな牧場仕事をこなす「トレイル」、急に方向を変える牛についていくためにスライディングストップという技もある「レイニング」など、いろいろな競技に発展しています。それでは次回からはひとつひとつの競技に焦点を当ててご紹介します。

(幸田郁代)



## 編集後記

今年は梅雨に入ったというのに、(今のところ) 雨も少なく夏のような陽気が続いています。

先月、「ハケ岳ホース・エキスポ in こぶちさわ」に参加してきました。「馬に学ぶヒトとウマのより良い関係」がテーマで、メインプログラムは「人と馬の動く解剖学」でした。午前中は、白い馬に骨格や筋肉の絵を描いて、馬の動きと骨格や筋肉の動きの関係を、午後は人間が骨格を描いたレオタードを着て馬に乗り、馬の動きとヒトの動きとの関係を見ることができました。

馬との体を通したコミュニケーションを取るにはどうしたらいいのか、自分の体を自覚してうまく使うにはどうしたらいいのか・・・いろいろと考えるきっかけとなりました。このようなイベントは日本で初めてとのことでしたが、競馬や馬術競技ではなく、様々な角度から馬について学ぶ機会がたくさんあるといいなあと思います。

(峯崎 友香理)

